広島湾ベイエリア・大崎上島

チームビルディングに最適な櫂伝馬体験

農業や食を学ぶ農業体験

フェリーに乗ってお別れ

自然と歴史 人情を感じる感動の島

広島県大崎上島町は、瀬戸内海のほぼ中央に位置する面積43・29平方㌔、人口約7134人の離島です。本土とは、竹原、安芸津港とフェリーで海上約30分で結ばれており、その他、大崎下島、大三島、今治市との航路もあります。離島ではあるものの、山陽自動車道、広島空港などにより主要都市とは短時間で結ばれています。瀬戸内海特有の温暖な気候と風光明媚な景観の中、島という限られた土地に生き、造船業・海運業、ミカン、レモン、デコポンなど多種類の柑橘（かんきつ）栽培をはじめとする農業、水産業など、先人たちのたゆまぬ努力によって発展してきました。

2011年から体験型修学旅行の受け入れに向けてスタートし、島の特性、文化を生かしたさまざまなプログラムを用意しています。中でも1番のおすすめプログラムは、櫂伝馬体験。船頭1人の16人が乗り込みます（体験人数112人）。それぞれのポジションで役割を担い、独特の掛け声と太鼓で調子を合わせ、心を一つにして櫂の動きを合わせなければならず、チームワークの人情を感じていただき、島の人々の生き方や命の源の食生産を担う農山漁村の役割を考え、理解する機会となります。これら「まるごと島体験」が、自らの生活や家庭、生き方を省みる機会となり、生きる力と豊かな心を育む契機になればと考えています。

皆さまに安心して来島いただけるよう新型コロナウイルス感染症防止安全対策やその他、安全、衛生、防火など各種講習会を行い、万全の体制で皆さまをお迎え致しますので、ぜひ大崎上島にお越しください。

■SDGs取り組みプログラム

「主体的・対話的で深い学び」に加え、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であるSDGsに取り組むためのプログラムも用意しています。

●上記櫂伝馬のほか売りのプログラム

①シーカヤック（体験人数120人）

瀬戸内海の無人島周辺を航海します。また、プランクトンや稚魚がすむ「魚のゆりかご」と呼ばれる瀬戸内海でも有数の甘藻場を観察し、環境学習をします。

②農作業体験（体験人数100人）

瀬戸内海特有の温暖な気候で育った柑橘類やブルーベリー、トマト、イチゴなどの栽培過程から農業の厳しさを学び、食について学習します。

■民泊体験

120人の受け入れが可能です。島の人々と生活を共にすることにより、豊かな自然と島独特の育成に比類のない、学校教育には極めて有効なプログラムです。また、瀬戸内の穏やかな海を渡っては早馬でし り、甘藻場で海の生命について学ぶシーカヤックが、櫂伝 だけます。

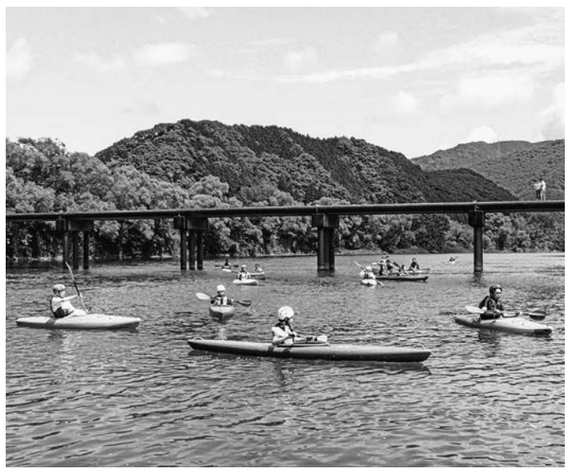
瀬戸内海で船釣り体験

シーカヤック体験

広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会
（広島商工会議所　産業・地域振興部　地域振興課内）
担当（田村・田井）
営業時間　月～金曜日　9：00～18：00（祝日は除く）

〒730-8510 広島市中区基町5-44
TEL 082-555-8081　FAX 082-222-6622
E-mail:bayarea@hiroshimacci.or.jp
URL https://www.hiroshima-bayarea.net/

高知県・四万十・足摺エリア


四万十川でのカヌー体験

「主体的・対話で深い学び」でSDGs考える 日本最後の清流を体験

四国の西南部に位置する高知県の四万十・足摺（幡多）地域は、日本最後の清流といわれている「四万十川」を中心に「足摺岬」など山、川、海と多様な自然環境に恵まれた地域です。この豊かな自然環境を生かしたさまざまな体験プログラムを商品化しており、全国に誇れる自然体験型観光の先進地を目指しております。

■SDGs学習プログラム

自然豊かな幡多地域で、「主体的・対話的で深い学び」を通して、持続可能な社会を未来につなぐために、自分たちは主体的に何ができるかを考えます。

■体験プログラム

体験プログラムは、「何にもないのに、なんでもある」をキーワードに豊かな自然が残っている田舎だからこそできる体験を中心に、食、文化、漁業、農林業など100種類を超える体験プログラムを提供しております。

防災学習で砂浜へ

自然と人との共生の形を学ぶSDGs

■田舎暮らし体験

特に大都市圏の学校から高い評価を得ているのは、一般の農山漁村家庭の〝ありのままの暮らし〟を体験できる「田舎暮らし体験」です。現在、受け入れ家庭数は80軒を超え、1日最大300人程度の受け入れが可能となっています。山、川、海に恵まれたこの地域では、自然を知り、触れ合うことで自然とともに生きる力を養うことができます。

人気が高い「カツオのわら焼きタタキづくり体験」

■カツオのわら焼きタタキづくり体験

高知の食文化の代表でもあり、一番人気です。漁師のおじさん、おばさんがインストラクターとなり、生徒自らがカツオ1本を丸ごとさばいてわらで焼き、タタキを作って食べます。この体験によりカツオ漁の歴史や高知の食文化などを感じ、食材への感謝の気持ちを育むとともに、魚嫌いの生徒も自然と食べることができるようになります。

■四万十川カヌー体験

初心者でも安全かつ気軽に体験できる事例を学ぶのではなく、これから起こり得る近い将来の災害について自分たちがどのような行動ができるかを考え、一人一人の防災意識を高めるためのプログラムとなっております。

■防災学習

地震などの自然災害から身を守り、生きる力を育てるプログラムを用意しています。過去に起こった事例を学ぶのではなく、これから起こり得る近い将来の災害について自分たちがどのような行動ができるかを考え、一人一人の防災意識を高めるためのプログラムとなっております。

■受け入れ態勢

受け入れ窓口の幡多広域観光協議会は、高知県と幡多6市町村（四万十市、宿毛市、土佐清水市、黒潮町、大月町、三原村）で組織し、四万十・足摺地域でしか体験できない豊かな自然、食、伝統文化、生活や人と人との心のつながりを生徒に感じていただける安全で信頼性の高い体験プログラムを提供できるよう、官民が一体となって取り組んでおります。

一般社団法人　幡多広域観光協議会

〒787-0014 高知県四万十市駅前町15―16
TEL 0880-31-0233　FAX 0880-31-0660
E-mail:syuryo@hata-koiki.com
URL https://www.hata-kochi.jp/

体験交流とSDGs推進

徳島県・美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町

傾斜地に点在する集落「天空の里」で田舎暮らしを体験

世界が認めるウォータースポーツフィールド

ESD・若者のためのSDGs実践現場 〝日本一の田舎〟そらの郷

四国、徳島県の西部に位置する「そらの郷」は、四国の中央に位置するにし阿波（美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町）エリアです。「大歩危・祖谷」「吉野川」に代表される自然、歴史文化、伝説や伝承、さらに独特の食文化、伝統芸能に彩られた全国屈指の観光地域であると共に、素朴で温かみのある古き良き暮らしが今もなお息づいています。

■老舗「そらの郷山里物語」のアップデート

民泊26年の歴史、地域内約180軒、同時受け入れ人数約600人。そらの郷の民泊家庭は、その多くが山腹の急傾斜地に、張り付くように形成される集落に存在し、特有の文化的景観を形成しています。山畑のコエグロ、石積み、人家などが、一つとなった傾斜地における自然共生の風景こそが「日本一の田舎」や「桃源郷」とも称される、日本の原風景です。

生徒たちは家族の一員として迎えられ、茶摘みやタマネギ、ジャガイモ、雑穀の収穫など、少量多品種の自給的農業を協働します。収穫した旬の野菜や山菜を使って田舎料理を共同調理、家族団欒（だんらん）します。

2016年、農林水産大臣から「食と農の景勝地」の認定。18年、国連食糧農業機関（FAO）から「世界農業遺産（GIAHS）」の認定。20年には、第17回オーライ！ニッポン大賞「内閣総理大臣賞」を受賞しています。また、SDGsの実践現場として、ESDの地域推進拠点に登録されており、「PBL（課題解決型学習）×STEAMプログラム」を実施しています。

SDGs―PBL×STEAMプログラムでは、地元高校生とフィールドワークなどを取り組む

■SDGs―PBL×STEAMプログラム

STEAMプログラムのテーマに沿って、フィールドワーク・WS、ディスカッションなどを組み立てる、ほんもののSDGsアクティブラーニングです。コロナによるパラダイムシフト、そしてVUCAの時代に対し、社会に開かれた教育現場「日本一の田舎」として、未来を変える若者を育成します。

なお、withコロナの民泊受け入れが功を奏し、民泊HACCP衛生管理を導入するなど、品質のアップデートに成功しました。全ての民泊家庭やインストラクターは、研修や安全衛生講習を受け、危機管理や安全操り、激流を乗り越え、五感で大自然と対峙（たいじ）します。

withコロナの農業体験・農文化学習。エシカル農業の知恵を学ぶ

吉野川の畔で多世代スポーツ交流

■吉野川パークゴルフ

多世代交流型のスポーツを介し、河川環境マインドや心身の健全な成長を促し、社会的コミュニケーション能力を身につけます。

■民泊阿波おどり

落のにぎわいとして、念仏踊・風流踊の阿波おどりが継承されてきました。過酷な農業疲れを吹き飛ばす芸能娯楽。離村式では輪踊りで再開を誓い門出を祝います。農文化継承のSDGs特別プログラムも実施中。

■吉野川ラフティング

吉野川は世界クラスのラフティングコース。2017年、日本初の世界選手権を開催。仲間とボートを対対策に関する万全の体制を整えています。

一般社団法人 そらの郷
営業時間　平日8：30～17：15
※内容のお問い合わせは事務局・担当者までお願いします。

〒778-0005 徳島県三好市池田町シマ995-1
TEL 0883-76-0713　FAX 0883-72-0753
E-mail:sora@cn05.awaikeda.net
URL https://nishi-awa.jp/soranosato/

長崎県・五島市

「釣りの聖地」で行う船釣り体験（市内全地区）

「世界遺産の国境離島」 SDGsを学ぶフィールド

九州の西の端、長崎から西に約100㌔に位置し、11の有人島と52の無人島で構成される五島市。

古くは遣唐使の寄港地、海外貿易の拠点として栄え、またカトリック信仰の地として数多くの教会が点在し、さらに倭寇や空海の伝説が残り、城郭や武家屋敷など歴史文化遺産も豊富であることが五島市の魅力です。

■五島市体験交流協議会

五島市体験交流協議会では、豊かな自然と多様な農林漁業の営み、歴史や文化を生かした体験交流型教育旅行の受け入れを行っています。

「五島感動しま旅！」と銘打った一連のプログラムは、地域に暮らす人のなりわいや生活を一緒に体験したり、地域の自然や歴史をともに楽しんだりといったそこでしか味わえない、「ほんもの体験」にこだわっています。

世界文化遺産　江上天主堂（奈留島の江上集落）

現在、教育民泊は市内全域で最大100軒400人までの受け入れが可能となっています。

■SDGsへの取り組み

2021年以降本格実施されている新学習指導要領では、主体的、対話的で深い学びの実現「アクティブラーニング」による課題発見・問題解決型学習が重視されています。

また、「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る」という目標を共有するために、SDGsの目標や取り組みを関連付けた質の高い教育プログラムが求められています。

本協議会では、これまで島ならではの、豊かな自然を楽しむ自然体験など多種多様なプログラムを提供してきましたが、これらの体験プログラムを生かしながら、新学習指導要領とSDGsを結びつけた体験プログラム構築に取り組んでいます。

一例として、五島市は、2013年に全国で初めて、浮体式洋上風力発電施設が設置されました。

その後、本格的な運用について知見を深めるとともに、周辺海域や海洋生物、生活環境への影響調査を継続した結果、安全で環境への影響が小さい発電施設であることが確認されています。

浮体式洋上風力発電

このような海洋再生エネルギーと漁業との共生により、次世代につなげる持続可能な社会を目指した先進的な取り組みを現場で感じるプログラムを構築し、五島市を体験することで、未来を創る子どもたちに深い学びを体験することで、具体的なSDGsを学ぶ機会になると期待しています。

五島市体験交流協議会
株式会社 JSH
（担当：松本 俊也）

つばきねこ

〒853-0005 長崎県五島市末広町3-4
TEL 0959-76-3600　FAX 0959-88-9346
URL https://www.goto-shimatabi.com/
Email:jsh-travel@jsh-japan.jp